

うつ病患者の通常診療下における職場復帰後継続率と
復職成功予測因子及びそのバイオロジカルマーカーの探索

分担研究者 中村 純 産業医科大学医学部精神医学 教授

研究要旨：われわれの調査では休職したうつ病患者に通常の薬物療法や支持的精神療法などの治療的な介入を行い、復職判定を行うと6か月以上復職が継続できた人はわずか4割程度、しかも2割の患者は1か月以内に再休職することが明らかになった。そこで精神科医が復職判定する時に精神症状、社会適応度の自己評価尺度（SASS）、さらにいくつかの認知機能評価を行い、復職判定に用いる生物学的な指標を明らかにすることを目的に研究を行った。その結果、復職判定時の精神症状や認知機能検査では、何ら復職継続の指標となる認知機能検査は見いだせなかった。但し、復職準備性評価シート（秋山）では、活動性の多寡、家族との交流度などは復職継続の指標となりうるということが明らかになった。さらにSASSでは、仕事の裁量権を有する人は復職継続ができる傾向を示した。したがって、今回の研究では、通常の外來治療では復職継続は非常に困難であること。そして、復職継続の指標となる生物学的な指標は見だせなかったため、今後はアクチグラムを用いた客観的な生活リズムやモノアミンの代謝産物、他のサイトカインの動向などを測定して復職判定を効率的に行う生物学的な指標を見出したいと考えている。

A. 研究目的

うつ病治療において職場復帰は重要であるが、通常診療下での復職継続率は明らかにされていない。本研究の目的は、通常診療下での職場復帰継続率を調査し、復職成功予測因子とそのバイオロジカルマーカーを検索することである。

B. 研究方法

DSM-IVで大うつ病性障害の診断基準を満たし、休職中だったが復職した患者54名を対象とした。対象患者に対して、HAM-D、SASS-J、Verbal Fluency Test、N-back、CPTを用いた。復職6ヶ月の時点で復職継続している群を復職成功群、脱落した群を復職失敗群と定

義した。また復職決定時に血中BDNF値を測定しその両群を比較検討した。本研究は、産業医科大学倫理委員会の承認を得ており、被験者からは全て口頭および文書にて同意を得ている。

C. 研究結果

復職2年の時点での復職継続率は27.5%

復職後1ヶ月以内に約2割の患者が脱落した。復職決定時に活動性の高い群（N=30）と低い群（N=24）に分け、その後の復職継続率を追跡調査した。

活動性の低い群では高い群と比較して累積生存率は低くLog-rank testで、 $\chi^2 = 4.65, p = 0.03$ だった。Cox比例ハザードモデルを使用し

て分析したところ、再休職のハザード比は3.28だった。

復職決定時の血中 BDNF 濃度は復職成功群と失敗群で差はなかった。

D. 考察

通常診療科での復職継続率は低く、特に早期の脱落が多い。復職成功時の活動性の評価が復職予測するかもしれないが、現時点では血中 BDNF 濃度からは復職予測は難しい。

E. 結論

現在の通常うつ病治療では復職2年間で3割弱の勤労者しか復職に成功しない。また、復職早期の脱落も多い点も着目すべきである。復職決定時の精神症状からは復職継続を予測できないが、復職決定時に活動性が保たれているほど復職が成功するかもしれない。

現時点で復職成功を予測できるような生物学的な予測因子は明らかではないが、今後多種類のサイトカインやアクチグラムなどを用いて多方面からの検索を行っていきたいと考えている。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

堀 輝、香月あすか、守田義平、吉村玲児、中村純：うつ病勤労者の復職成功者と復職失敗者の差異の検討、精神科治療学 28(8)1063-1066, 2013

Okuno K, Yoshimura R, Ueda N, et al.,

Relationships between stress, social adaptation, personality traits, brain-derived neurotrophic factor and 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol plasma concentrations in employees at a

publishing company in Japan. Psychiatry Res. 2011; 186(2-3): 326-332

2. 学会発表

堀輝、香月あすか、守田義平、中村純：

うつ病患者は復職早期の脱落が多い～復職成功者と復職失敗者で何が違うのか～

第32回日本社会精神医学会 熊本

堀輝、香月あすか、守田義平、吉村玲児、中村純：復職うつ病勤労者の2年間の復職継続率と休職に至る勤労者の特徴 第10回日本うつ病学会 北九州

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

2. 実用新案登録